

南九州市「松ヶ浦校区福祉座談会」

南九州市知覧町松ヶ浦校区では、平成22年度に地域における住民同士の見守りや生活を支え合うしくみをつくるための「高齢者等要援護者地域生活支援総合事業」のモデル地区として、福祉座談会を4回開催しました。

そして今年、平成22年度に作成した「あんぜん(危険箇所)マップ」や「あんしん(支え合い)マップ」の更新作業を通して、地域の移り変わりやその後の経過を把握し、確認し合うことを目的に「フォローアップ座談会」を行いました。



今年度はフォローアップ座談会を開催しました♪



あんぜんマップとは? 別名:危険箇所マップ

地域の危険な箇所を共有することが目的です。平常時から意識することで、いざというときお互いが安心・安全に避難することにつながります。



あんしんマップとは? 別名:支え合いマップ

気になる人(要援護者等)と周辺住民との関わりなどを線で結びます。単に要援護者の印をつけるだけでなく、地域生活や福祉の実態を浮き上がらせ、その地域の取り組み課題を抽出します。

「あんぜんマップ」の更新作業では、改善された箇所や新たな危険箇所など、1箇所ずつ以前の状況と現在の状況の確認を行いました。

「あんしんマップ」についても、地域の変化を確認しましたが、気になる世帯の方が亡くなっていたり、入院・入所等で地域を離れていたりとすることがありました。逆に、当時は空き家だったところに新たに若い世代の方が移り住んでいることもあり、それらの変化をマップに書き込みました。

作業を通じて、病院等への移動のための交通手段の問題など、地域の課題が再認識されました。

このように、マップを介して地域の状況を再確認し、これまでの取り組みで変わった部分や今後の取り組み課題を発見するために南九州市社協では「フォローアップ座談会」を今後も実施していきます。